

平成 19 年 度 教 育 研 究 業 績 書

氏名 西 山 要 一

最終学歴	龍谷大学文学部史学科（国史学専攻）卒業
取得学位	文学士
所属学会	日本文化財科学会、文化財保存修復学会、考古学研究会、I.I.C.Japan など
現在の専門分野	保存科学、文化財学
研究課題	(1)文化財保存環境の研究(温湿度調整・大気汚染影響) (2)古代象嵌銘技法の研究 (3)レバノ共和国所在ローマ時代壁画地下墓の保存修復研究 等
<p>【研究上の特記事項】</p> <p>研究課題(1)については15年間,(2)については25年間研究を継続していて、毎年新しいデータの集積と新たな資料を発見している。(3)については2004年よりレバノンに赴き継続し2007年度に完了した。その他、文化財の科学分析、科学的保存処理等を行い、さまざまな研究開発も行っている。</p>	
<p>【教育上の特記事項】</p> <p>研究課題(1)～(3)については学生も参画して実施し、教育の一翼を担っている。その他、授業・実習以外にも文化財の材質分析、科学的保存処理、文化財の現地見学等、の機会を設けて学生とともに学び、研究を進めている。 奈良教育大学教育学部非常勤講師（保存科学、保存科学実習）、奈良県立大学観光学部非常勤講師（世界遺産論）として他大学の文化財教育にも携わっている。</p>	
<p>【社会的活動】</p> <p>大阪府吹田市文化財審議会委員、大阪府茨木市文化財審議会委員、大阪府柏原市高井田横穴墓保存検討委員会委員長、大阪府阪南市文化財審議会会長、大阪府環境影響評価審査会委員、大阪市環境影響評価専門委員会委員、J I C A ・兵庫県環境創造協会東アジア酸性雨モニタリングネットワーク研修講師</p>	
<p>【学内活動】（学内職歴を含む）</p> <p>文化財分析機器の充実に伴い、学生を対象に機器利用の講習会を開催し、またオープンキャンパスでの公開・デモンストレーションも行い啓発に努めている。学内外(一般)に呼びかけた研究会等を開催し、文化財研究・保存科学研究・文化財保存の普及にもつとめている。国際交流委員会委員長として韓国・韓瑞大学校および韓国伝統文化学校との学生派遣・受入を実現し、新たに中国・蘇州科技学院との交流協定の締結を行った。奈良大学大学院文学研究科文化財史科学専攻博士前期・後期課程教授兼任。奈良大学通信教育部文化財歴史学科教授兼任。</p>	

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学術論文)				
Report of the Conservation Mission for TJ04 in Ramali, Tyre, Lebanon - 2007 Summer	単	平成19年9月	奈良大学	レバノン・ティール郊外地下墓の修復の2007年度調査の概要報告(英文)。24頁。
7レバノン共和国ティール市郊外ラマリ地区所在地下墓TJ04の保存修復研究 - 2007年夏季概要報告 - 古代の象嵌を求めて東へ西へそして韓国へ	単	平成19年9月	奈良大学	レバノン・ティール郊外地下墓の修復の2007年度調査の概要報告(和文)。24頁。
世界遺産の大気環境と適正環境策定の研究	単	平成19年11月	奈良大学保存科学研究室『保存科学走る』	平安時代の平象嵌技法が日本独特の装飾技術であることを初めて明らかにし、また日本の三寅剣の謎の解明に当たって韓国の三寅剣・四寅剣が大きなヒントとなったことを述べた。P32～P37。
レバノン共和国ティール郊外ラマリ地区所在ローマ時代壁画地下墓TJ04保存修復研究 2006年度概要報告書	単	平成20年3月	奈良大学総合研究所『総合研究所所報』第16号	およそ20年にわたる奈良の文化財の大気環境調査と大気汚染による文化財被害、そして世界各地の大気汚染による文化財被害について述べ、被害の軽減方法を論じた。P99～P116。
(学会発表)				
大気汚染が文化財に与える影響とその防御の研究	共	平成19年6月	日本文化財科学会第24回大会研究発表要旨集 P78～P79	およそ20年間の奈良の文化財所在地における大気汚染調査から、文化財への影響とその防御について述べた。
大気汚染の文化財への影響とその防御の研究	共	平成19年11月	2007東アジア文化遺産保存国際シンポジウム準備委員会『2007東アジア文化遺産保存国際シンポジウム発表要旨集』	1989年に開始した奈良の文化財所在地における大気汚染観測と文化財への影響の研究の成果を発表した。特に、文化財環境の改善のための大気汚染源の削減・法規制・樹木林の活用などを述べた。